

日時 令和 5 年 12 月 26 日 (火)、16 時～18 時

場所 オンライン開催 (Zoom)

参加者 (4 名)

青木 崇「組織における従業員の幸福度と働きがいについて」

内容：社会人として働く理由は様々であるが、経営学的見解として 4 つの要因を示した。そのうちの 1 つの幸福経営を取り上げて説明を行った。まず、エド・ディーナー (Diener, Ed) の研究成果を紹介し、幸福感の高い人はそうでない人と比べて、創造性が 3 倍高く、生産性は 31%、売り上げは 37% 高く、幸福度が高い人は欠勤率や離職率が低いことが明らかになっていることを示した。経営者は短期的な利益よりも従業員の幸せを重視したほうが長期的な利益につながるという考え方について説明を行った。ついで、幸福経営はウェルビーイング経営と言い換えることができ、体も心も良好な状態にあることが経営において重要な意味をもち、Google の事例を紹介した。そのほか、エンプロイヤー・エンゲイジメント、従業員満足度、従業員幸福度の意味をそれぞれ説明した。幸福感の計測尺度として、キャントリル・ラダー (キャントリルのハシゴ) があること、年収と幸福度についての見解、幸せのメカニズムに関する先行研究などの説明を行った。

前回 (2023 年 10 月)、私が発表した際に話題に上った幸福経営の考え方や推進していくための方法論などについて心理学、社会福祉学、ジェンダー論の観点について協議され、多岐にわたる内容であったが、会員の専門領域において、有意義なディスカッションができた。

次回 令和 6 年 1 月 22 日 (月)、18 時半～20 時、オンライン開催予定

発表予定：村山